



学校教育目標

[知] 進んでできる子・考える子
[徳] 心豊かな子
[体] たくましい子

今月の生活目標

返事をしっかりします



4月のむくの木

「失敗しても大丈夫！」の経験がチャレンジする力に

校長 佐藤 貴広

今年も、「1年生を迎える会」は、体育館に「やあっ！」の音が響き渡り、笑顔あふれる時間となりました。体育館に1年生が入場するのを待つ子供たちは、いつもの集会よりも、そわそわしていました。練習してきた発表がうまくいくか、緊張と楽しみとが入り混じった様子でした。6年生に手を引かれた1年生を拍手で迎え、6年生から順に、学校生活を紹介する寸劇や合唱、合奏などを発表しました。はじめに発表した6年生の大きな声での説明や演技が、続く各学年へ勢いとなって伝わったからでしょうか、どの学年も、いつも以上の「笑顔 やる気 元気」あふれる発表となりました。1年生を楽しませたい、安心させたい、と子供たちの思いが全身から表現され、見ている1年生も笑顔になり、思わず声を出したり歌ったりする児童もいました。1年生もお礼の言葉を伝え、元気よく校歌を歌いました。発表では、児童が一人で声を出したり演技したりする場面もありました。堂々としている児童もいれば、恥ずかしそうにしている児童もいましたが、それぞれ個性を発揮して、頑張ったと思います。

大阪府立大空小学校初代校長の木村泰子氏は、著書「10年後の子どもに必要な『見えない学力』の育て方」の中で、社会を生き抜くために必要な力として、「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」の4つの力をあげています。その中で、「チャレンジする力」は、「小学生のうちにどれだけ失敗するか」で決まるとの教育観を述べています。木村氏は、今の子供たちや若者が、なぜ、失敗を恐れ、チャレンジしないか、との問いに対し、失敗したら叱られる、失敗したら困る、という経験値をもっているから、と答えています。失敗したら、「どうやり直そうかな」、「やり直せばいいだけだよね」、と思える経験を、子供のうちに存分に積んでおくことが大切で、そのためには、身近にいる大人が、失敗したらやり直せばよいという姿を見せることだと述べています。もし、「1年生を迎える会」で、練習通り発表できなかつた児童がいたとしたら、その経験は、木村氏の言う、社会を生き抜くために必要な「チャレンジする力」を蓄える貴重な経験となったことでしょう。

今月は、25日（土）に運動会を予定しています。ゴールデンウィーク明けからは本格的に競技や表現の練習が始まります。運動が好きな児童も苦手な児童も、失敗を恐れず練習に取り組めるよう、励ましながら教育活動を進めて参ります。保護者、地域の皆様も子供たちへの温かな声かけをどうぞよろしくお願いいたします。